

2008 年

10 月 19 日（日曜日） - 全国鳴き砂サミット IN 京丹後 -

18 日、19 日と、2008 全国鳴き砂サミットが京丹後市で開催されました。全国鳴き砂サミットとは、本市の琴引浜のような貴重な自然・文化遺産としての鳴き砂を将来永く保全していくことを目的に、全国 17 の鳴き砂を有する各地の市民団体や行政が連携と協力を図るために平成 6 年に組織された「全国鳴き砂ネットワーク」が毎年各地持ち回りで開催しており、本年は、全国から 11 の地域、12 の団体の皆さんが参加をして京丹後市で開催をされました。



国指定天然記念物及び名勝・市指定文化財
琴引浜の鳴き砂（京丹後市網野町）

18 日には、昨年 10 月にお亡くなりになられた鳴き砂の父、故・三輪茂雄博士の大変なご功績を讃え、琴引浜の鳴き砂を守る会をはじめ大勢の篤志家の皆さんにより、博士の記念碑が御建立され、除幕式も行われました。博士には、お亡くなりになる当日の遺稿に「幽霊になっても琴引浜は大事にしたい」と遺してくださり、とても重く尊く受け止めています。深く敬意とともに、心からお偲びを捧げます。

琴引浜は、三輪博士との出会いのご縁をきっかけに、守る会の皆さんの地道で大変なご尽力、網野町行政の全国初の禁煙条例の制定などのご努力などが長年重ねられ、昨年 7 月に鳴き砂としてわが国で初めて国の天然記念物と名勝に指定されました。琴引浜の鳴き砂を守る会の皆さん、京丹後市民の皆さん、そして全国の鳴き砂の関係者はじめ多くの皆さんとともに喜びを分かち合い、この喜びを弾みに、鳴き砂の素晴らしさ、豊かさを広く世に伝え、永く将来に伝え継いでまいりたいと思います。

琴引浜など鳴り砂の保全は、鳴き砂浜の自然の貴重さ、尊さに気づかさせていただき、浜のパトロールや禁煙条例など保全の思いや行為をそこに積極的に加えていく、自然と人との共生を慈しみをもって育てていく自然と人の尊い協働作業であります。今、「環境と人との共生」が時代のテーマであります。このような琴引浜をはじめ鳴き砂の保全活動は、近年世界で本格的に謳われ始めた地球環境保全活動推進の上で端緒ともなる有名な京都議定書が宣言された平成 9 年のはるか以前、昭和 56 年には「琴引浜の鳴り砂を守る会」が網野町の地元の皆さん中心に結成されていますし、その以前から島根県仁摩町（現・大田市）の琴ヶ浜では住民の皆さんの保全活動がなされている実態があり、このことだけみても、鳴き砂を巡る共生の活動こそは、まさに、今広く世界の各分野で求められている地球環境との共生の取り組みの「魁（さきがけ）」であります。

本年 9 月、琴引浜・丹後半島の沖合いで操業されている京都府機船底曳網漁業連合会

の皆様が、ズワイガニとアカガレイの漁業で、アジアで初めてとなる MSC（海洋管理協議会。ロンドンに本部を置く国際的な認証機関）の漁業管理認証を取得され、「持続可能で適切に管理され、環境と資源に配慮して営まれる漁業」として世界的な認証評価をお受けになりました。（-「[未来に輝き出した漁業 京都機船底曳網漁業連合会](#)」-）

このことは、琴引浜・丹後半島沖のズワイガニとアカガレイの漁業が「海洋環境と海洋資源に配慮された世界で最も優れた漁法」として国際的に広く認知されたものであり、本市として心から喜ばしく思いますとともに、一層素晴らしいのは、広く琴引浜の海岸・海域一帯が、琴引浜の鳴き砂の保全活動と陸続・海続する沖の漁業とともに、海岸・海上一体となってそれぞれ国際的にさきがけ、代表するような「環境と人との共生の活動」が展開されていくということであり、環境との共生のための取り組みが、このように陸域と海域が一体的に行われることとなったことは極めて画期的なことではないかと受け止めています。

今後とも、琴引浜の鳴き砂保全の活動、底曳網漁連の漁法はじめ、広く世界の社会経済の各分野で自然環境との共生の取り組みが進められていく原動力として、一層充実した保全や共生の取組みを全国各地の仲間の皆さんと心をついに、推進してまいりたいと決意を固くいたしました。